

北海道大学病院 高度な医療の提供と先進的な医療の開発で地域や社会に貢献

2021年11月、開院100周年を迎える北海道大学病院は、患者本位の安心・安全な医療を提供するとともに、専門医療人材育成、先進的な医療の開発・提供を推進。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応にも全力で取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症への取り組み

北大病院内における新型コロナウイルス対策

北大病院では、院内感染防止の徹底を図るため、職員の手指消毒の徹底、診療に当たっての適切な防護具の使用、検査入院等の延期、病状安定の外来患者の受診間隔の延長、長期処方、電話診察・診療の積極的な実施に努めています。また、すべての入院患者に対して抗原定量検査を実施する体制を整備しています。

新型コロナウイルス感染症患者の受け入れ体制

2020年4月から1病棟を新型コロナウイルス感染症患者専用病棟とし、軽中等症者から重症者まで受け入れています。加えて重症患者対応病床として、ECMO（体外式膜型人工肺）診療も可能なICUの陰圧室（2床）を確保。また北海道からの要請を受け、新たに産科病棟の一部を妊産婦及び新生児の新型コロナウイルス感染症患者用の病床としています。2021年4月以降の第4波にあたっては、一時的にさら



新型コロナウイルス感染症患者病棟の現場

にもう1病棟を新型コロナウイルス感染症患者専用病棟として対応しました。

地域医療への貢献

札幌市感染症対策本部感染症対策検討・実施アドバイザー、札幌市新型コロナウイルス感染症医療提供体制検討会議委員、札幌市新型コロナウイルス感染症対策専門家会議委員として北大病院の医療安全管理部長が参画し、域内の感染症対応について協力しています。

また、北大病院は札幌市の3次救急医療を支えることも使命であり、新型コロナウイルス感染症への対応とともに、通常診療体制を継続し、受け入れ対応を行っています。

産科オンライン妊婦健診・診療

新型コロナウイルス感染症への不安が増す中で、妊婦の感染機会をできる限り減らすべく、北大病院での遠隔妊婦健診・診療システムを急ピッチで構築しました。2020年3月初旬からオンライン妊婦健診・診療を開始し、約4カ月間で延べ77名の妊婦に健診・診療を実施。大規模な遠隔妊婦健診は全国で初めての試みでした。



唾液によるPCR診断法の開発・普及

北大病院では、2020年4月から唾液でのPCR検査の確立に取り組まれました。厚生労働省の支援を受け、全国的大規模研究を実施。その結果、無症状者への唾液PCR検査が認可され、2020年5月より唾液による手術前スクリーニング検査を全国に先駆けて実施しました。また、産学共同研究によって検査時間の短縮にも取り組み、時間短縮PCR検査や全自動PCR検査のほか、LAMP検査、抗原定量検査など、さまざまな検査法においても唾液が使用できることを明らかにしました。医療従事者や感染防御具の確保が必要なくなり、時間短縮にもつながる唾液検査が可能になったことで、無症状者スクリーニングがスムーズに実施できる体制が確立され、民間検査の参入も可能となり、市中での検査が一気に広がる効果もたらしました。

2020/5/29 北海道大学病院検査部 検査部

術前スクリーニングSARS-CoV-2 PCR検査 唾液採取法

採取容器

○減菌液かつ密閉できる ×非減菌または密閉できない

採取方法

- ①口のなかに自然にたまる唾液をカップに吐き出す
- ②これを2回行ってください
- ③容器のふたをしっかりと閉めてください

注意事項

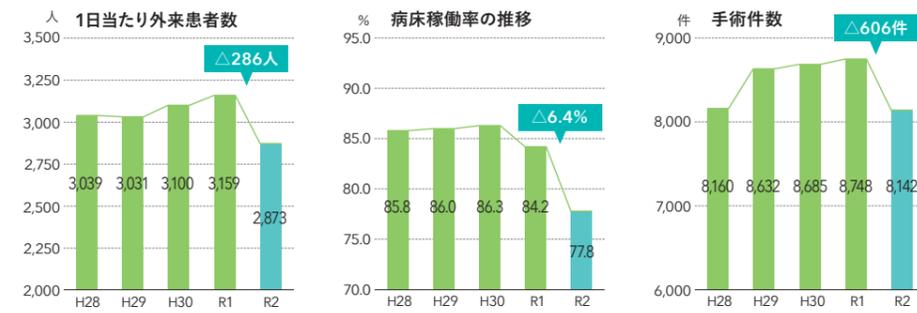
- 検体採取の10分前は、飲食（ガム・のどめあむむ）、うがい、歯みがき禁止
- 自宅で採取する場合は起床後すぐがよい
- 採取後は室温保存でOK（ひと晩以上の場合は冷蔵庫へ）

唾液によるPCR検査のための唾液採取法

診療実績

北大病院は、病床数922床、診療科数41科（医科29、歯科12）。診療内容や外来・入院患者数など、道内における中核の医療機関です。本院では一般的な病気に対する診療から先進的な医療まで幅広く行い、「北の医療の最後の砦」の役割を果たしています。

●2016年度から2020年度までの実績推移



2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響により診療実績が減少

カダバーラボ（臨床解剖実習室）の開設

カダバーラボ（臨床解剖実習室）は、ご遺体（カダバー）を使用した手術手技トレーニング（カダバートレーニング）と、医療機器の開発を行う専用の実習室のことで、2020年8月に医歯学総合研究棟内に開設しました。これまでのトレーニングは学生用の解剖学実習室で行っていましたが、使用機器や実施時期の制約があるため、手術室と同様の環境で通年利用が可能な専用室の整備を進めてきました。カダバーラボには、手術台や内視鏡手術装置などの医療機器と放射線透視装置を有しており、すべての外科領域のトレーニングと医療機器の開発が可能です。

北大病院でのカダバートレーニングは、現在、7診療科（消化器外科Ⅰ、消化器外科Ⅱ、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、循環器・呼吸器外科）がトレーニングを実施。受講者数は年々増えており、開始以来、延べ1,000人以上の医師

が受講し、北海道の医療レベル向上に大きく貢献しています。また、2020年に病院内に新設された医療機器開発推進センターでは、通常の医療機器開発や研究開発の人材育成に加え、ご遺体を使用した医療機器開発の実施体制を整え、2020年度には初の共同研究を実施しています。

北大病院では、カダバーラボを核として、安全で高度な医療技術の普及、新たな術式の考案、新規医療機器の研究開発など、広く医学の進歩に寄与することを目標とした活動を行っています。



カダバーラボ内部

詳しくは『CAST関連事業』のウェブサイトをご覧ください。
<https://cast.med.hokudai.ac.jp/>
 CAST=Cadaveric Anatomy and Surgical Training

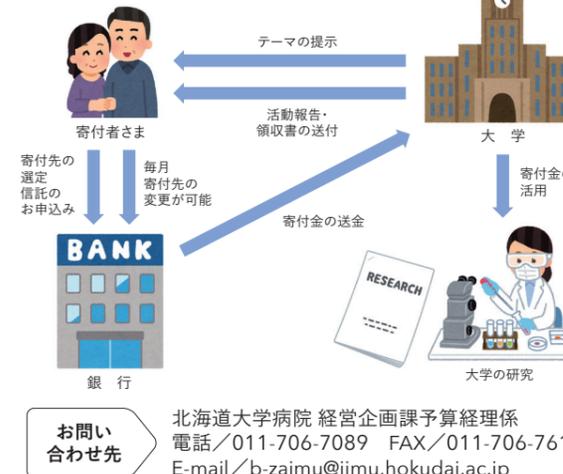
北大病院へのご支援

北大病院ゆめ募金 ～寄付信託からのご寄付も可能となりました

北大病院では、以前より「北大病院ゆめ募金」において、「北大病院が、将来にわたり最先端の医療を提供し続けるとともに、将来の医療を支える人材を育成する」ための寄付の受け入れを行っていましたが、このたび三井住友信託銀行との協働により、「寄付信託」という形でも寄付の受け入れが可能となりました。

また、2020年7月に新設された「北大病院新型コロナウイルス安全安心基金」についても、新型コロナウイルス感染症の流行の中でも患者の皆さまが安心して本院で診療を受けられるよう、また、本院の医療従事者が安全に診療業務に当たられるよう、2021年度においても、引き続き寄付の募集を行っています。

〈医療支援寄付信託のスキーム〉



お問い合わせ先
 北海道大学病院 経営企画課予算経理係
 電話/011-706-7089 FAX/011-706-7611
 E-mail/b-zaimu@jimuhokudai.ac.jp